

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年12月24日 (2015.12.24)

【公表番号】特表2015-502774(P2015-502774A)

【公表日】平成27年1月29日 (2015.1.29)

【年通号数】公開・登録公報2015-006

【出願番号】特願2014-540030(P2014-540030)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/12 (2006.01)

A 6 1 B 17/00 (2006.01)

A 6 1 B 17/42 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/12

A 6 1 B 17/00 3 2 0

A 6 1 B 17/42

【手続補正書】

【提出日】平成27年10月29日 (2015.10.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

出血を処置するためのシステムであって、該システムは、
実質的に管状の膜に封入された少なくとも 1 つの発泡体インプラント
を含み、該膜は、締め付けられることにより第 1 の袋状構造および第 2 の袋状構造を形成し、(a) 該発泡体インプラントは、締付点に隣接する該第 1 の袋状構造内に位置付けられ、(b) 該第 2 の袋状構造は、該第 1 の袋状構造の上部および該インプラントを覆うように引っ張られる、システム。

【請求項 2】

前記少なくとも 1 つの発泡体インプラントは、複数の円盤体を含む、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 3】

前記複数の円盤体の各々は、平坦表面と、該平坦表面の反対の凸状または円錐状表面とを有する、請求項 2 に記載のシステム。

【請求項 4】

前記複数の円盤体の各々は、前記平坦表面が交互に上下するように配列されている、請求項 3 に記載のシステム。

【請求項 5】

前記膜は、少なくとも 1 つの継目またはタックを含み、該継目またはタックは、前記円盤体の互いに対する移動および該膜に対する移動を制限するように配されている、請求項 2 ～ 4 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 6】

前記第 1 の袋状構造の開放端は、前記複数の円盤体の最後のものを越えて延在する、請求項 2 ～ 5 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 7】

前記円盤体は、前記第 2 の袋状構造内で相互に積層されている、請求項 2 ～ 6 のいずれ

か一項に記載のシステム。

【請求項 8】

前記システムは、前記第 1 の袋状構造に張力を付与することによって子宮から前記インプラントを除去することを可能にするように構成されている、請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 9】

前記システムは、前記インプラントが前記子宮から引き出されるまで前記第 2 の袋が実質的に定位置に留まることを可能にするようにさらに構成されている、請求項 8 に記載のシステム。

【請求項 10】

前記膜は、潤滑性層またはシートを含む、請求項 1 ～ 9 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 11】

前記潤滑性層またはシートは、穿孔されている、請求項 10 に記載のシステム。

【請求項 12】

前記膜に潤滑性コーティングが塗布されている、請求項 1 ～ 9 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 13】

前記インプラントは、少なくとも 30 mmHg の圧力を付与されるように構成されている、請求項 1 ～ 12 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 14】

前記発泡体は、50% 圧縮時、100 kPa 未満の圧縮力偏向値を有する、請求項 1 ～ 13 に記載のシステム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

別の側面では、本発明は、子宮出血を治療する方法である。ある実施形態では、本方法は、子宮壁と、生体適合性ポリマー発泡体を備える、インプラントを接触させるステップを含む。インプラントは、随意に、縁部分およびより厚い中心部分を有する、複数の発泡体本体を含んでもよい。ポリマー発泡体は、50% 圧縮時、100 kPa 未満の圧縮力偏向値を有することができる、または少なくとも 30 mmHg の圧力を子宮壁に印加することができる。インプラントは、種々の実施形態では、分娩後のヒトの子宮の 100% ～ 200% の体積を有することができ、および / または 1 つ以上の多孔性膜または血液凝固を助長する薬物を含むことができる。本方法はまた、使用後、インプラントの少なくとも一部を溶解する薬剤を塗布するステップを含んでもよい。インプラントは、圧力を子宮壁に印加することによって、子宮の収縮を生じさせてもよく、発泡体は、患者の子宮内に形成されてもよく、または事前に形成されてもよい。他の実施形態では、本方法は、患者の子宮内に、少なくとも 1 つの生体適合性発泡体ポリマー本体と、インプラントの外部表面を覆って配置される、1 つ以上の膜とを含む、子宮インプラントを位置付けるステップを含む。種々の実施形態では、インプラントは、随意に、縁部分およびより厚い中心部分を有する、複数の発泡体本体を含んでもよい。ポリマー発泡体は、50% 圧縮時、100 kPa 未満の圧縮力偏向値を有することができ、または少なくとも 30 mmHg の圧力を子宮壁に印加することができる。本方法はまた、張力を多孔性膜の第 1 の端部に印加することによって、インプラントを除去するステップを含んでもよい。

本発明は、例えば、以下を提供する。

(項目 1)

子宮出血を治療する方法であって、
患者の子宮壁と発泡体を接触させるステップ
を含む、方法。

(項目 2)

前記発泡体は、複数の発泡体本体を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

前記複数の発泡体本体はそれぞれ、中心部分および縁部分を含み、前記中心部分は、前記縁部分の厚さを上回る厚さを有する、項目 2 に記載の方法。

(項目 4)

前記発泡体は、50%圧縮時、100kPa未満の圧縮力偏向値を有する、項目 1 に記載の方法。

(項目 5)

前記発泡体は、分娩後のヒトの子宮の体積の100%~200%の体積を有する、項目 1 に記載の方法。

(項目 6)

前記発泡体は、前記発泡体の外部表面の少なくとも一部を覆って配置される、少なくとも 1 つの多孔性膜を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 7)

前記発泡体は、血液凝固を助長する、薬物を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 8)

使用後、前記発泡体の少なくとも一部を溶解させる薬剤を塗布するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 9)

前記発泡体は、子宮壁に圧力を印加することによって、子宮の収縮を生じさせるように構成される、項目 1 に記載の方法。

(項目 10)

前記発泡体は、少なくとも30mmHgの圧力を子宮壁に印加するように構成される、項目 1 に記載の方法。

(項目 11)

前記発泡体は、前記患者の子宮内に形成される、項目 1 に記載の方法。

(項目 12)

前記発泡体は、事前に形成される、項目 1 に記載の方法。

(項目 13)

子宮出血を治療する方法であって、

患者の子宮内に発泡体を位置付けるステップであって、前記発泡体は、少なくとも 1 つのポリマー発泡体本体と、前記ポリマー発泡体本体の外部表面の少なくとも一部にわたって配置される、少なくとも 1 つの膜とを備える、ステップ
を含む、方法。

(項目 14)

前記少なくとも 1 つのポリマー発泡体本体は、中心部分および縁部分を含み、前記中心部分は、前記縁部分の厚さを上回る厚さを有する、項目 13 に記載の方法。

(項目 15)

前記発泡体は、分娩後のヒトの子宮の体積の100%~200%の体積を有する、項目 13 に記載の方法。

(項目 16)

前記少なくとも 1 つのポリマー発泡体本体は、50%圧縮時、100kPa未満の圧縮力偏向値を特徴とする、項目 13 に記載の方法。

(項目 17)

前記膜の第 1 の端部に張力を印加することによって、インプラントを除去するステップをさらに含む、項目 13 に記載の方法。

(項目 1 8)

前記発泡体は、血液凝固を助長する、薬物を含む、項目 1 3 に記載の方法。

(項目 1 9)

前記発泡体は、そこに圧力を印加することによって、子宮の収縮を生じさせるように構成される、項目 1 3 に記載の方法。

(項目 2 0)

前記発泡体は、少なくとも 3 0 m m H g の圧力を子宮壁に印加するように構成される、項目 1 3 に記載の方法。

(項目 2 1)

前記ポリマー発泡体本体は、前記患者の子宮内に形成される、項目 1 3 に記載の方法。

(項目 2 2)

生体適合性ポリマー発泡体本体は、事前に形成される、項目 1 3 に記載の方法。

(項目 2 3)

前記発泡体をアプリケータ内に圧縮するステップをさらに含む、項目 1 3 に記載の方法

。